

NPO法人 足尾に緑を育てる会

緑をよみがえらせ、渡良瀬川に豊かな水を取り戻すことこそ、

足尾に生きる自分たちの使命であることに気付いて誕生したNPO法人足尾に緑を育てる会は、

「足尾の山に100万本の木を植えよう」という遠大な目標を掲げて活動を開始しました。

四月下旬に開催される植樹活動には、今では東北や関西方面からも希望者が駆け付けるなど、

毎回千五百人近くが参加するまで規模が拡大しています。

今までに植えた苗木は五万三千本、

目標にはまだまだ遠く及びませんが、足尾の山は着実に緑を回復しています。



土と苗木を手渡しリレーで運びあげる参加者

壮大な目標を掲げて設立

銅山の歴史や環境問題を考える拠点にしようと、役場の職員だった神山英昭氏の提唱で一九九三年に設立されたのが「渡良瀬川協会」。同協会の植えた桜の苗が10本全部枯れたので、宇都宮大学の谷本丈夫教授にその原因をたずねたところ、「花見がしたいのか、それとも荒廃したこの地に緑をよみがえらせたいのか」と言われました。この言葉がきっかけとなり、「緑をよみがえらせ、渡良瀬川に豊かな水を取り戻すことこそ、足尾に生きる自分たちの使命」であること

に気がつき、誕生したのが「足尾に緑を育てる会」です。

一九九六年には、NPO法人を取得するとともに、名称を改称。「渡良瀬川研究会」「田中正造大学」「渡良瀬川にサケを放す会」「足尾ネーチャーライフ」の四団体が加入し、「足尾の山に100万本の木を植えよう」と遠大な目標を掲げたボランティア活動が始まりました。

植樹活動は年々拡大

植樹活動は毎年四月下旬の土曜と日曜の二日間行われます。また、



今年は雨の中での植樹活動となりました

植樹活動に参加する人や組織は年々増え続けており、最近では子供から高齢者まで一五〇〇人前後の人々が、栃木県内だけでなく東北、関東、東海、関西方面からも駆けつけます。植樹活動には都市銀行、大企業などの民間会社や、日光森林管理署、国土交通省渡良瀬川河川事務所、栃木県、日光市などの官公庁の支援も受けており、官民一体となったボランティア活動ともいえます。



切り立った階段状斜面に丁寧に植栽

植樹は危険を伴う作業です。岩肌をむき出しにした急傾斜地に幅二メートルほどの階段を作って植樹を行います。その際にはロープを張り、はしごをかけるなど安全第一を心がけています。下から上に一〇列ほどの縦隊で並び、土と苗木の入った袋をリレーで運び、各階段に集めます。その

危険な斜面で奮闘

ベリーの苗木などが提供され、ごつごつした岩山が優しい緑の晴れ着へと生まれ変わりつつあります。



小学生の交流植樹も支援

して各人が瓦礫をかき分けて土を入れ、苗をいねいに植えていきます。今年の植樹活動では、朝から雨が降り続く中、千四百人がレインコートを着て参加しました。若い人は八〇〇段の急な階段を登り、苗木を一本一本心をこめて植栽していました。雨の中、達成感に満ちた表情で山を下りる姿は頼もしく感じます。暑い夏には、苗木がすくすく育つように下刈りを行い、秋には、植えた苗木が無事に育っているかを確かめます。

一九九六年の植樹開始から一四

年間に、延べ一万五千人が参加し、五万三千本の苗木を植えました。目標にはまだまだ遠いものの、小学生や幼稚園児も参加していますので、国土緑化への意識が大きく広がり、必ず目標達成出来るものと期待も大きくふくらみます。

NPO法人 足尾に緑を育てる会

会長：神山英昭氏

1993年 渡良瀬川協会設立 足尾の荒廃地復旧活動を開始

1996年 NPO法人「足尾に緑を育てる会」に改称、
「渡良瀬川研究会」「田中正造大学」「足尾ネチャーライフ」
「渡良瀬川にサケを放す会」の4団体が加入。

2008年 1,550人参加して5,100本植栽

2009年 1,400人参加して5,500本植栽

累計 11,310人参加して45,900本植栽

日光事務局 日光市足尾町松原2-10 電話0288-93-2187